



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

アポトーシス抑制因子血漿sFasの投与は心不全の長期予後を改善する

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西垣, 和彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/501

緒 言

Fas-Fas リガンド(Fas-L)系において Fas、Fas-L および可溶性 Fas-L はアポトーシスを誘導するが、可溶性 Fas (sFas) は Fas と Fas-L ならびに sFas-L との結合をブロックすることによりアポトーシスをブロックできる。ヒトの慢性心不全において血漿中の sFas は心不全の重症度に応じて上昇し、かつ心不全の程度が同じ時、予後は血漿 sFas 上昇群で良好であった。すなわち、sFas はアポトーシスをブロックすることにより心不全の進行を抑制 している可能性がある。本書は、科学研究費補助金 (基盤研究(C) (2) “アポトーシス抑制因子血漿 sFas の投与は心不全の長期予後を改善する” についての研究に関する総括的報告書である。

研究組織

研究代表者： 西垣 和彦 (岐阜大学医学部附属病院 講師)
研究分担者： 竹村 元三 (岐阜大学医学部附属病院 講師)
 : 藤原 久義 (岐阜大学医学部 教授)

研究経費

平成11年度	2,000千円
平成12年度	1,500千円
計	3,500千円